

## 小美玉市の歴史を知ろう㉑ 近世大名・戸沢政盛公の足跡～下馬場鹿島神社の棟札～



前回、紹介した『小川稽医館の碑』に「慶長中戸澤右京亮政盛封焉政盛移封於手綱城之後即以其地益入我威公封域之中」と刻まれています。これは、水戸藩になる以前には、小川に戸沢政盛という殿様がいたことを示しています。慶長七年（一六〇二）五月、常陸を統一した佐竹義宣が出羽秋田に国替えとなつたのち、角館城主（秋田県仙北市）戸沢政盛は、常陸国多賀郡（高萩市）と茨城郡（旧小川町など）に四万石が与えられ、のちの常陸松岡藩主となりました。翌年六月、政盛は小川小学校周辺にあつた小川城に入城します。



戸沢政盛公肖像画  
(写真提供:高萩市)

前回、紹介した『小川稽医館の碑』に「慶長中戸澤右京亮政盛封焉政盛移封於手綱城之後即以其地益入我威公封域之中」と刻まれています。これは、水戸藩になる以前には、小川に戸沢政盛という殿様がいたことを示しています。慶長七年（一六〇二）五月、常陸を統一した佐竹義宣が出羽秋田に国替えとなつたの

戸沢家は、平忠正（平清盛の叔父）の子、平維盛を祖とします。平維盛の子、衡盛の代になると、滴石庄（岩手県零石町）に本拠地を構えるようになります。室町時代には本拠地を角館に移します。

政盛の父、盛安は「鬼九郎」の異名で名将と謳われ、東北地方の有力戦国大名の一人にのし上ります。そして、天正十八年（一五九〇）、豊臣秀吉の小田原征伐では、東北地方の大名の中でいち早く参陣しますが、陣中にて二十五歳の若さで亡くなってしまいます。政盛は嫡男でしたが、

十九歳の時に小川城入城を果した政盛ですが、水の便が悪いとの理由から、慶長十年（一六〇五）、多賀郡（高萩市）の竜子山城を改築する許可願を幕府に提出しました。翌年、改革が完成して、小川城から竜子山城に移り、城の名前を松岡城と改めました。

その後、政盛は、慶長十九年（一六一四）の大坂冬の陣では、松岡から出陣して小田原城に詰め守衛にあたり、翌年の大坂夏の陣では、江戸城を守衛しています。

小川領における戸沢氏の支配は、慶長八年（一六〇三）～元和八年（一六二二）の約二十年間ですが、慶長十年（一六〇五）までの4年間は、本城を小川城に置きました。本拠を松岡城に移した後は、小川領には、代官として小山壱岐と片岡奎之助を駐在させました。『出羽国

最上郡新庄古老覚書』によるところ、茨城郡下には、小河本郷、野田村、川戸村、世（与）沢村、吉かけ（吉影）村上下、芝高村、生井沢村、秋葉村、芦黒村、鳥羽田村、持地村、下青柳村が領地であったと記載されています。

た。本拠を松岡城

に移した後は、小

川領には、代官と重」とあります。政盛は、慶長十四年（一六〇九）に「安

盛」から「政盛」と改名して、

従五位下右京亮に任官、譜代

大名に列せられています。慶

長十七年の棟札ですので、本

来であれば、「政盛」である

はずですが、なぜか「安盛」

となっています。

その後、元和八年（一六二

二）、政盛は、新庄藩（山形

県新庄市）六万石に加増さ

れ、領地替えとなります。そ

して、小川領七千石は、親藩

である水戸藩に編入されま

す。小川城跡は、水戸藩の御

殿として利用されたのち、水

運を掌る小川運送方役所（寛

永年間（一八〇三）、郷医の

医学修練所である小川稽医館

（一八〇四～一八六四）、小川

小学校（一八七三～）と変遷

しているため、城館跡として

の痕跡はほとんど残っていない。

せん。

（玉里史料館 学芸員 本田信之）



下馬場鹿島神社の棟札